

にぎわい通信

会員だより

令和3年度7月号「にぎわい通信」252号を発行しましたのでご案内いたします。今回は石川県能登町と新潟県新潟市におけるにぎわいの様子を紹介いたします。

「噂のイカ」の名称が決定！ その名も「イカキング」！

「みなとオアシス小木」としてみなとオアシスにも登録されている小木港（石川県能登町）ですが、令和3年5月一躍有名になりました。



それは、海外メディアにも紹介された「スルメイカのモニュメント」です。全長13m、全幅9m、高さ4m、重さ約5tと超巨大イカでオアシス代表施設の「イカの駅 つくモール」前に鎮座しております。

6月22日、愛称の公募に届いた900を超える一般応募の中から「イカキング」と決定されました。

マスメディアをはじめ批判の声もあるなか、地元では好意的に受け止められており、週末は家族連れで賑わうなど、来場者数の増加にも貢献しているようです。（特に子どもに大人気！）

コロナの影響により様々なイベントが中止を余儀なくされるなか、子ども達がイカキングで楽しそうにしている様子はとても元気付けられます。

みなとのにぎわいを創出するみなとオアシスの意義から考えても「大成功！」と感じますがイカがでしょうか？

これは新鮮なうちに見にイカないと！



みなとオアシス小木
「イカの駅 つくモール」



子ども達が無邪気に遊ぶ様子

新潟港海岸で「津波防災訓練」を実施！

7月25日（日）新潟港海岸（新潟県新潟市）において、日本海側の大規模地震を想定した津波避難訓練が開催されました。同海岸で例年行っているビーチイベントについてはコロナ禍により開催は叶いませんでしたが、地域の方々、海岸協力団体、ビーチスポーツ競技者などが参加し、初めて海岸での津波避難訓練を行うことが出来ました。

新潟県
新潟市



夏の日差しが照りつけるなか、参加していた海岸の近くに住む地域の方からは「東日本大震災後、津波を強く意識するようになった。今回の避難訓練を通して避難経路をしっかりと考えることができて良かった」という声も聞かれました。

日本海側の大規模地震時には津波が短時間で海岸に到達することが予想され、避難誘導の重要性が指摘されております。いざという時のためにも、避難誘導における看板設置位置やデザイン等、見やすさ・分かりやすさに留意した効果的な看板設置を進めていきます。



熱心に説明を聞く参加者のみなさん



誘導看板を見ながら避難する参加者



訓練後には水辺の安全教室
（心肺蘇生・AED講習）も開催しました

事務局からのお知らせ

令和3年度の「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」総会等は新潟県村上市で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、現地での開催が困難となったため、WEB形式（Teams）により開催予定です。

日程は10月5日（火）14:00～を予定しております。

詳細が決まり次第、会員の皆様へ別途ご案内させていただきますので、首長様、担当者様の出席について調整をお願いいたします。

また、令和4年度の総会開催地につきまして、稚内市での開催を目指して現在調整中です。こちらについても別途ご連絡させていただきます。

コロナ禍により各地のにぎわい活動が困難な状況ですが、感染が落ちつき、今まで以上のにぎわいが取り戻せるよう、各会員で協力しあって乗り越えていきましょう。引き続きよろしくお願いいたします。